

平成29年度セクシュアル・ハラスメント及び体罰に関する実態調査の結果について（概要）



平成30年6月6日

千葉県教育庁教育振興部教職員課

電話 043-223-4036

平成29年度に実施した、公立学校の児童・生徒及び職員を対象としたセクシュアル・ハラスメント及び体罰に関する実態調査の結果がまとまりましたので、その概要を報告します。

この調査は、各学校が、学校におけるセクハラ及び体罰に関する実態を把握し、効果的に防止策を講じ、よりよい学校環境をつくるために実施しているものです。

1 調査方法等

(1) 調査対象

千葉市立学校及び市立高等学校を除くすべての公立学校に在籍する児童・生徒（対象人数は、496, 531人）及び職員（対象人数は、県立学校においては、12, 157人）

(2) 調査対象期間

平成29年4月1日（土）から回答日まで

(3) 実施期間

平成29年12月1日（金）から平成30年1月31日（水）まで

(4) 実施方法

ア 児童・生徒

学校生活におけるセクハラ、体罰及びセクハラ以外のハラスメントについて、アンケートにより、調査する。

イ 職員

セクハラに関する実態をアンケートにより、調査する。

2 調査結果の概要

(1) セクハラ実態調査の結果について

ア 児童・生徒

セクハラと感じて不快であったと回答した児童・生徒の割合は、平成28年度と比較して変化はなく、100人当たり0.1人であった。実数で見ると、平成28年度の340人から308人に32人減少している。

- ・高等学校生徒0.2人（0.2人）
- ・特別支援学校児童・生徒0.3人（0.4人）
- ・小学校児童 0.02人（0.03人）
- ・中学校生徒 0.1人（0.1人）

※数字は児童・生徒100人当たりの人数、（ ）内は平成28年度

主な回答は、「必要以上に身体に触られ、不快であった。」、「みんなの前で容姿を話題にされ、不快であった。」、「性的な話・冗談等を言われ、不快であった。」というものであり、ここ数年変わりがない。

また、セクハラ以外のハラスメントを受けて不快であると感じた児童・生徒の割合は、100人当たり0.2人（実数では、763人）あり、回答の多くは、「わざと挨拶を無視する先生がいる。」、「生徒が傷つくであろう発言があった。」等といった教員の発言や対応等によるものであった。（平成28年度は実数で875人）

調査結果を踏まえ児童・生徒本人と面談をする等状況を確認したところ、深刻な問題はなかった。

なお、県立学校の児童・生徒のセクハラ相談員（悩みごと相談員）の周知率（相談員を知っている率）が、平成28年度の63.6%から66.8%へ上昇した。引き続き、周知率の向上に取り組んでいく。

イ 職員

県立学校では、98人の職員がセクハラであると感じたと回答した。平成28年度の75人と比較すると23人増加している。

(2) 体罰実態調査の結果について

アンケート調査の結果、新たに確認された体罰はなかった。調査を始めた平成24年度の54件と比較すると、大きく減少している。

- | | | | |
|---------|--------|-------------|--------|
| ・高等学校生徒 | 0件（0件） | ・特別支援学校児童生徒 | 0件（0件） |
| ・小学校児童 | 0件（0件） | ・中学校生徒 | 0件（0件） |

※（ ）内は平成28年度

3 今後の対策

セクハラ及び体罰の根絶に向けて、引き続き、セクハラ防止に向けたリーフレットを活用し、教職員及び児童・生徒への啓発を図るとともに、教職員に対し、参加型の研修を行うこと等により、教職員一人一人の倫理観の高揚を図る。また、児童・生徒の人権意識の高揚も図っていく。

問い合わせ

教育振興部教職員課管理室

電話 043-223-4036

平成29年度セクシュアル・ハラスメント及び体罰に関する実態調査の結果について【データ編】

調査方法等について

1 調査対象

すべての公立小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校に在籍するすべての児童・生徒及び職員（千葉市立学校及び市立高等学校を除く。）を対象とし、児童・生徒においては、「学校生活アンケート」として実施。

※ただし、産休、育児休業、休職、療養休暇中の職員は除く。特別支援学校の生徒については、家庭に持ち帰る等の対応による調査を行った。

※体罰調査は、職員には実施していない。

※義務教育学校の人数は、当該小中学校に含めて集計を行った。

※調査対象期間は、平成29年4月1日（土）から回答日までである。

＜回答者数＞児童生徒数合計：473,161名

高等学校生徒 91,867名 特別支援学校生徒 5,264名

小学校児童 251,231名 中学校生徒 124,799名

高等学校職員 7,735名 特別支援学校職員 3,787名

※市町村立の小学校・中学校・特別支援学校の回答職員数は未集計。

＜調査学校数＞学校数合計：1,165校

市町村立小学校 680校 市町村立中学校 320校

市町村立義務教育学校 2校 市町村立特別支援学校 2校

県立中学校 2校 県立高等学校 123校

県立特別支援学校 36校

2 実施期間

平成29年12月1日（金）から平成30年1月31日（水）まで

3 実施方法

(1) 児童・生徒

学校生活におけるセクハラ、体罰及びセクハラ以外のハラスメントについて、アンケートにより、調査する。

(2) 職員

セクハラに関する実態をアンケートにより、調査する。

4 男女別在籍者数及び回答者数

(1) 児童・生徒

生徒		県立高等学校			特別支援学校		
年度	性別	在籍者数	回答者数	回答率%	在籍者数	回答者数	回答率%
平成29年度	男子	47,646	45,765	96.1%	3,943	3,556	90.2%
	女子	47,822	46,102	96.4%	1,921	1,708	88.9%
	合計	95,468	91,867	96.2%	5,864	5,264	89.8%
平成28年度	男子	48,394	46,291	95.7%	3,881	3,501	90.2%
	女子	48,618	46,407	95.5%	1,996	1,794	89.9%
	合計	97,012	92,698	95.6%	5,877	5,295	90.1%

児童・生徒		小学校			中学校		
年度	性別	在籍者数	回答者数	回答率%	在籍者数	回答者数	回答率%
平成29年度	男子	134,677	127,453	94.6%	68,003	64,042	94.2%
	女子	128,289	123,778	96.5%	64,230	60,757	94.6%
	合計	262,966	251,231	95.5%	132,233	124,799	94.4%
平成28年度	男子	135,836	127,963	94.2%	65,748	61,897	94.1%
	女子	129,005	124,131	96.2%	62,678	59,169	94.4%
	合計	264,841	252,094	95.2%	128,426	121,066	94.3%

(2) 教職員

職員		県立高等学校			県立特別支援学校		
年度	性別	在籍者数	回答者数	回答率%	在籍者数	回答者数	回答率%
平成29年度	男性	5,497	5,265	95.8%	1,528	1,452	95.0%
	女性	2,596	2,470	95.1%	2,502	2,335	93.3%
	合計	8,093	7,735	95.6%	4,030	3,787	94.0%
平成28年度	男性	5,574	5,322	95.5%	1,533	1,465	95.6%
	女性	2,686	2,507	93.3%	2,419	2,267	93.7%
	合計	8,260	7,829	94.8%	3,952	3,732	94.4%
職員		県立中学校					
年度	性別	在籍者数	回答者数	回答率%			
平成29年度	男性	22	22	100%			
	女性	12	12	100%			
	合計	34	34	100%			

※小学校・中学校は、それぞれの市町村で集計している。

セクハラ実態調査の集計結果について

1 児童・生徒編

(1) 回答者数及びセクハラと感じたと回答した人数

児童・生徒		平成29年度			平成28年度		
年度	性別	回答者数	セクハラと感じたと回答した人数	割合%	回答者数	セクハラと感じたと回答した人数	割合%
高等学校	男子	45,765	29	0.1%	46,291	40	0.1%
	女子	46,102	124	0.3%	46,407	115	0.2%
	合計	91,867	153	0.2%	92,698	155	0.2%
特別支援学校	男子	3,556	7	0.2%	3,501	12	0.3%
	女子	1,708	7	0.4%	1,794	10	0.6%
	合計	5,264	14	0.3%	5,295	22	0.4%
中学校	男子	64,042	42	0.1%	61,897	36	0.1%
	女子	60,757	43	0.1%	59,169	40	0.1%
	合計	124,799	85	0.1%	121,066	76	0.1%
小学校	男子	127,453	18	0.01%	127,963	24	0.02%
	女子	123,778	38	0.03%	124,131	63	0.05%
	合計	251,231	56	0.02%	252,094	87	0.03%
合計		473,161	308	0.1%	471,153	340	0.1%

※セクハラと感じて不快だったと回答した児童・生徒の人数が、全体として減少した。

※調査結果を踏まえ各学校で追跡調査を行ったところ、深刻な問題はなかった。

【全体】100人当たり0.1人(0.1人) ※小数点第2位を四捨五入

※100人当たりのセクハラを受けたと回答した人数、()内は平成28年度

(2) セクハラと感じて不快だったと回答した項目

※各学校種において、アンケート内で示したセクハラ例の回答人数の多い順に並べている。

① 県立高等学校 (回答人数 153) *セクハラと感じ不快だったと回答した生徒の人数 (複数回答)

項目	男子	女子	合計
・性的な話・冗談等を言われ、不快であった。	8	34	42
・みんなの前で容姿を話題にされ、不快であった。	6	20	26
・必要以上に身体に触られ、不快であった。	3	16	19
・男のくせに、女のくせに等と言われ、不快であった。	4	6	10
・性的な内容の電話・手紙・電子メール等をもらい、不快であった。	0	1	1
・性的な関係を求められ、不快であった。	0	0	0
・その他	6	61	67

② 特別支援学校 (回答人数 14) *セクハラと感じ不快だったと回答した児童・生徒の人数 (複数回答)

項目	男子	女子	合計
・必要以上に身体に触られ、不快であった。	2	3	5
・男のくせに、女のくせに等と言われ、不快であった。	2	0	2
・みんなの前で容姿を話題にされ、不快であった。	1	0	1
・性的な話・冗談等を言われ、不快であった。	0	0	0
・性的な内容の電話・手紙・電子メール等をもらい、不快であった。	0	0	0
・性的な関係を求められ、不快であった。	0	0	0
・その他	4	9	13

③ 中学校 (回答人数 85) *セクハラと感じ不快だったと回答した生徒の人数 (複数回答)

項目	男子	女子	合計
・みんなの前で容姿を話題にされ、不快であった。	12	9	21
・男のくせに、女のくせに等と言われ、不快であった。	11	6	17
・必要以上に身体に触れられ、不快であった。	9	7	16
・性的な話・冗談等を言われ、不快であった。	7	7	14
・性的な内容の電話・手紙・電子メール等をもらい、不快であった。	3	2	5
・その他	6	17	23

④ 小学校 (回答人数 56) *セクハラと感じ不快だったと回答した児童の人数 (複数回答)

項目	男子	女子	合計
・必要以上に身体に触れられ、不快であった。	6	18	24
・みんなの前で容姿を話題にされ、不快であった。	5	5	10
・性的な話・冗談等を言われ、不快であった。	4	6	10
・男のくせに、女のくせに等と言われ、不快であった。	2	3	5
・性的な内容の電話・手紙・電子メール等をもらい、不快であった。	0	0	0
・その他	3	7	10

(3) セクハラと感じ不快だったと回答した件数が多かった項目の推移

セクハラと感じ不快であったと回答した主な項目は、前年度と同じ傾向であった。

- ① 県立高等学校生徒 * () 内は、平成28年度。
- ・「性的な話・冗談等を言われ、不快であった。」 0.05% (0.03%)
 - ・「みんなの前で容姿を話題にされ、不快であった。」 0.02% (0.02%)
 - ・「必要以上に身体に触られ、不快であった。」 0.02% (0.04%)
- ② 特別支援学校児童・生徒
- ・「必要以上に身体に触られ、不快であった。」 0.09% (0.09%)
 - ・「男のくせに、女のくせに等と言われ、不快であった。」 0.04% (0.08%)
 - ・「みんなの前で容姿を話題にされ、不快であった。」 0.02% (0.08%)

- ③ 中学校生徒
- ・「みんなの前で容姿を話題にされ、不快であった。」 0.02% (0.02%)
 - ・「男のくせに、女のくせに等と言われ、不快であった。」 0.01% (0.01%)
 - ・「必要以上に身体に触られ、不快であった。」 0.01% (0.01%)
- ③ 小学校児童
- ・「必要以上に身体に触られ、不快であった。」 0.01% (0.02%)
 - ・「みんなの前で容姿を話題にされ、不快であった。」 0.01% (0.01%)
 - ・「性的な話・冗談等を言われ、不快であった。」 0.01% (0.01%)

※生徒の回答について内容を調査したところ、授業中の職員の冗談や教材の説明の中での性的な言動や、部活動及び服装頭髪指導等の生徒指導の場面における教職員の対応を不快と感じたものが多かった。

(4) セクハラととらえられた具体的な事柄(県立学校生徒の回答の趣旨の抜粋)

- ・集会時に後ろから頭を触って注意されたことが不快であった。
- ・体育の後、更衣時にわざわざホームルームに来て不快。
- ・化粧をしていないのに顔を拭かれた。
- ・携帯電話の画面を見られた。服装検査でスカートをチェックされる。
- ・スカートのベルトをつかまれた。
- ・授業中に頭をなでられた。気持ち悪かった。不快。
- ・必要以上に近づいて話をしてくる。
- ・話している時に近すぎたり、手を触られたりして不快であった。
- ・沖縄修学旅行の事前学習で、レイプや残酷な話を聞いて不快だった。
- ・体型のことを言われた。
- ・生理を理由に話した際に、「生理だからと言って・・・」と言われ、今でも不快な気持ちである。
- ・授業中に女性教諭が話した恋愛の話が、聞くに堪えなかった。
- ・授業中に性的な単語を言わされた。
- ・男性職員にスカートを注意されるのが嫌。
- ・先生が生徒の前で、生徒の下着の話などをする。
- ・生物の時間に授業と少し離れた内容で性的な話をされ不快であった。
- ・(服装頭髪検査で) 耳やスカートの折り目を見られる。
- ・授業中人格を否定されるようなことを言われた。
- ・担任が女子に対してえこひいきしている。
- ・部活動中の接触やセクハラともとれる言動を見た。
- ・苗字でなく名前で呼ばれて不快だった。
- ・授業中ほかにも例があるのにそういうことを言って不快。
- ・授業中に性的な話を例で使われた。DVDを見せられた。
- ・特定の先生に性的な話というか、気持ち悪い冗談を言われて不快だった。
- ・保健の授業で必要以上に答えさせようとする。
- ・体育の授業で集合時に胸や足をジロジロ見られた。
- ＊以下、特別支援学校
- ・肩を叩く等の行動に違和感を持つので、やめてほしいと訴えた。
- ・寄宿舎で女の職員から「(女子生徒は) 女子と一緒にいないといけない」と言われた。
- ・作業学習終了の移動の時に腕を握られた。

2 教職員編

(1) 回答者数及びセクハラと感じたと回答した人数

職 員		平成29年度			平成28年度		
年度	性別	回答者数	セクハラと感じたと回答した人数	割合 %	回答者数	セクハラと感じたと回答した人数	割合 %
県立 高等 学校	男性	5,265	13	0.2 %	5,322	13	0.2 %
	女性	2,470	54	2.2 %	2,507	38	1.5 %
	合計	7,735	67	0.9 %	7,829	51	0.7 %
県立 特別 支援 学校	男性	1,452	5	0.3 %	1,465	3	0.2 %
	女性	2,335	26	1.1 %	2,267	21	0.9 %
	合計	3,787	31	0.8 %	3,732	24	0.6 %
合計		11,522	98	0.9 %	11,561	75	0.6 %

※セクハラと感じて不快だったと回答した職員の人数が、増加した。

※調査結果を踏まえ各学校で追跡調査を行ったところ、深刻な問題はなかった。

【全体】100人当たり0.9人(0.6人) ※小数点第2位を四捨五入

※100人当たりのセクハラを受けたと回答した人数、()内は平成28年度

(2) セクハラと感じて不快だったと回答した項目

※各学校種において、アンケート内で示したセクハラ例の回答人数の多い順に並べている。

①県立高等学校(回答人数 67) *教職員や生徒からセクハラを受けたと回答した職員の数(複数回答)

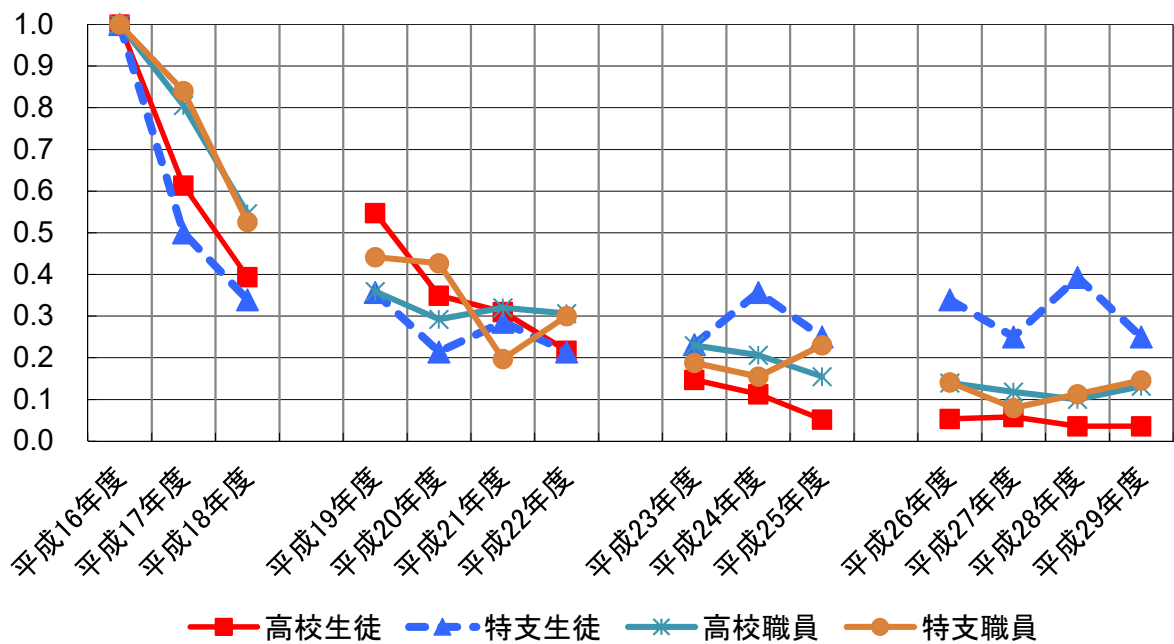
項 目	男性	女性	合計
・容姿・年齢・結婚・妊娠等を話題にされ、不快であった。	4	21	25
・性的な話・冗談等を言われたりメール等を送られ、不快であった。	3	7	10
・必要もないのに身体に触られ、不快であった。	1	8	9
・性体験や性的なことについて聞かれ、不快であった。	3	1	4
・性的なうわさを流され、不快であった。	1	1	2
・執ように携帯電話の番号やメールアドレスを聞かれ、不快であった。	0	1	1
・裸や水着のポスターやパソコンの画面を見せられ、不快であった。	0	1	1
・お酌、カラオケのデュエット、ダンス等を強要され、不快であった。	0	1	1
・執ように交際を迫られ、不快であった。	0	0	0
・性的な関係を求められ、不快であった。	0	0	0
・上記のことをされ、拒否すると人事や仕事上で不利になると言われた。	0	0	0
・その他	3	19	22

②特別支援学校（回答人数31）＊教職員や生徒からセクハラを受けたと回答した職員の数（複数回答）

項目	男性	女性	合計
・容姿・年齢・結婚・妊娠等を話題にされ、不快であった。	1	11	12
・性的な話・冗談等を言われたりメール等を送られ、不快であった。	0	6	6
・必要もないのに身体に触られ、不快であった。	1	2	3
・性的なうわさを流され、不快であった。	0	1	1
・性体験や性的なことについて聞かれ、不快であった。	0	1	1
・執ように交際を迫られ、不快であった。	1	0	1
・お酌、カラオケのデュエット、ダンス等を強要され、不快であった。	0	0	0
・裸や水着のポスターやパソコンの画面を見せられ、不快であった。	0	0	0
・執ように携帯電話の番号やメールアドレスを聞かれ、不快であった。	0	0	0
・性的な関係を求められ、不快であった。	0	0	0
・上記のことをされ、拒否すると人事や仕事上で不利になると言われた。	0	0	0
・その他	2	7	9

※職員の回答について内容を調査したところ、生徒からの身体的接触や性的な言動、同性による行為、他の職員への行為を不快と感じたとするものがあった。

3 セクハラと感じ不快であったと回答した人数の割合の変化（平成16年度以降）



4 セクハラ相談員の周知について

セクハラ相談員を知っていると回答した児童・生徒数と周知率

校種 年度	県立高等学校		県立特別支援学校	
	人数	周知率	人数	周知率
平成29年度	62,523名	68.1%	1,937名	39.4%
平成28年度	60,381名	65.1%	1,588名	33.6%
平成27年度	59,459名	64.2%	1,802名	38.1%
平成26年度	61,137名	66.6%	1,584名	36.2%

●セクハラ相談員の周知率について

- ・高等学校と特別支援学校を合わせた全体のセクハラ相談員の周知率は、平成28年度の63.6%から66.8%となった。高等学校では、周知率が3ポイント増加したが、特別支援学校では5.8ポイント増加した。今後も集会等でセクハラ相談員の紹介や平成27年度に配布した「わいせつ・セクハラ防止リーフレット～不祥事根絶に向けて～」を活用する、担任が周知する等して、引き続きセクハラ相談員の周知率向上に努め、生徒が相談しやすい環境を作ることが重要である。
- ・なお、市町村立小学校は67.4%、市町村立中学校は60.7%であった。

5 記名の状況について

※平成18年度調査から アンケートについては、原則記名としている。
※回答学校数 175校（全日制・通信制122+定時制17+特別支援36）

生徒	県立高等学校		県立特別支援学校	
	記名した生徒の割合	セクハラを受けたと回答した生徒のうち記名した生徒の割合	記名した生徒の割合	セクハラを受けたと回答した生徒のうち記名した児童・生徒の割合
平成29年度	96.1%	53.6%	92.5%	64.3%
平成28年度	94.3%	43.9%	92.3%	68.2%
平成27年度	94.7%	41.6%	93.6%	64.3%
平成26年度	93.7%	49.1%	91.6%	68.7%

記名した効果（複数回答）* 回答件数 161件

- | | | |
|-------------------------|-----------|-------------|
| | | ()内は平成28年度 |
| ・真面目に記入するようになり信頼性が向上した。 | 66件 37.8% | (68件 39.1%) |
| ・迅速で的確な対応が可能となった。 | 55件 31.4% | (67件 38.5%) |
| ・セクハラ抑制効果があった。 | 0件 0% | (0件 0%) |
| ・セクハラの実態把握が難しくなった。 | 0件 0% | (0件 0%) |
| ・その他 | 23件 13.1% | (63件 36.2%) |

6 調査結果に基づき、その後実施した対策の概要について

※対象学校数 175校 学校数（全日制・通信制122+定時制17+特別支援36）

(1) 生徒に対して ※各学校から記述回答されたものを分類

項目	高等学校	特別支援	全体
セクハラを受けたと記入した生徒本人と面談し、事情を聞いた。	41.0%	14.3%	35.6%
無記名の被害生徒に、相談を受けるよう呼びかけた。	11.5%	0%	9.2%
集会やホームルームで、全生徒にセクハラ防止の指導をした。	2.9%	0%	2.3%
文書や放送等でセクハラ相談窓口の周知徹底を図った。	0.7%	0%	0.6%
セクハラ防止のポスターや文書を作成し、掲示または配布した。	0%	0%	0%
その他	21.6%	40.0%	25.3%

(2) 教職員に対して

- ・全教職員に調査結果を知らせ、セクハラ防止に向け、注意を喚起したり、研修を実施したりしている。
- 【参考】セクハラ実態調査の効果について（各学校で記述回答されたものを集計し、その概要を分類）
- ・全体の93.1%の学校において、セクハラ実態調査は、セクハラ行為に対する抑止力となる、ハラスメントに対する意識が高まる等の面で効果があるとの回答があった。
 - ・セクハラ調査を年間複数回実施した方が良いとの意見が11校からあった。
 - ・風通しの良い職場づくりが、セクハラ防止の上でも効果があるとした意見が11校からあがった。
 - ・研修用視覚教材などがあればさらに効果が増すとの意見もあった。

7 セクハラ以外のハラスメントを受け不快であると感じた回答数 *平成28年度からの設問

●セクハラ以外のハラスメントを受け不快であると感じた人数について

児童・生徒においては、特別支援学校の割合が最も高く0.6%（31件）であった。この他、高等学校は約0.2%（229件）、小学校は0.17%（430件）、中学校は0.06%（73件）であった。なお、各学校でセクハラ相談員等が、追跡調査等を行ったところ、教員から児童・生徒に対するセクハラ以外のハラスメントの具体的な相談について、深刻な内容はなかった。

生徒		県立高等学校			特別支援学校		
年度	性別	回答者総数	回答数	割合%	回答者総数	回答数	割合%
平成29年度	男子	45,765	89	0.2%	3,556	17	0.5%
	女子	46,102	140	0.3%	1,708	14	0.8%
	合計	91,867	229	0.2%	5,264	31	0.6%

(199)

(23)

児童・生徒		小学校			中学校		
年度	性別	回答者総数	回答数	割合%	回答者総数	回答数	割合%
平成29年度	男子	127,453	218	0.17%	64,042	38	0.06%
	女子	123,778	212	0.17%	60,757	35	0.06%
	合計	251,231	430	0.17%	124,799	73	0.06%

(574)

(79)

職員		県立高等学校			県立特別支援学校		
年度	性別	回答者総数	回答数	割合%	回答者総数	回答数	割合%
平成29年度	男性	5,265	30	0.6%	1,452	15	1.0%
	女性	2,470	45	1.8%	2,335	47	2.0%
	合計	7,735	75	1.0%	3,787	62	1.6%

(61)

(51)

()内は平成28年度

セクハラ以外のハラスメントの具体的な事柄の例（県立学校生徒の回答の趣旨の抜粋）

- ・頭髪検査の時、バリカンで刈るぞと言われた。
- ・自分の事を「こいつ」や「お前」と呼ばれた。
- ・学習障害かと思ったと言われたこと。
- ・おかしいところを指摘して口論になったとき、成績を下げるとおどかさされた。
- ・「家畜以下だ」と言われた。
- ・すぐに他の高校と比べられるのが不快。
- ・校外で大声で服装を注意されたが、その時、周りの人に見られて不快だった。
- ・部活動の練習試合で、顧問からプレイについて強く指導された際に「お前は使えない、いらぬ」と言われた。
- ・部活動で無茶なことを言われて精神的に追い込まれたこともあった。傷つけられたわけではないが、教育や指導の域を出ている言動が多い気がする。
- ・成績で席順を決めたり態度が変わるのが不愉快。
- ・差別用語使い過ぎ、あいさつかえさない、不愉快。
- ・更衣室内の手洗い場を利用するため、男性教員が担当教科の準備室前にある女子更衣室を開けることがある。
- ・先生からの暴言で精神的に追い込まれている。
- ・教員が自分や友達の事を馬鹿にして笑いを取ろうとする。

【特別支援学校】

- ・「さん」付けをしないで名前を呼ばれることに不快を感じる。
- ・パニックになった時「大人のやることではありません」と担任から言われた。
- ・生徒が傷つくであろう発言があった。（更衣室で「くさい」「お風呂に入っていない人がいるでしょう」という発言）
- ・高校生らしさという価値観を押しつけて個性を奪わないで欲しい。

体罰実態調査の結果集計について

1 調査内容

千葉市及び市立高等学校を除く、すべての公立小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校に在籍するすべての児童・生徒及び保護者を対象として、平成29年度中の体罰についてアンケート調査を実施し、新たに体罰の事実を確認した件数及び事案の概要を各県立学校及び各市町村教育委員会から報告する。

2 調査結果

実態調査の結果、生徒が体罰として記入したのは0件であった。
なお、平成29年度調査でも0件であった。

(1) アンケートから確認し、体罰の疑いがあると報告された件数

学校種	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
平成29年度	0	0	0	0	0
平成28年度	0	0	0	0	0
平成27年度	0	0	1	0	1

(2) 体罰の場面について（平成28年度及び29年度は該当なし）

体罰の場面	部活動中	授業中	その他	合計
平成29年度	0	0	0	0
平成28年度	0	0	0	0
平成27年度	0	1	0	1

3 体罰の事案での平成29年度中の処分の状況について（平成30年3月31日現在）

(1) 体罰の事案での処分の状況について（事故発生年度と処分年度は一致しない。）

学校種	免職	停職	減給	戒告	訓告等	合計
小学校	0	0	0	0	1	1
中学校	0	0	0	0	0	0
高等学校	0	0	0	0	3	3
特別支援学校	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	4	4

* 訓告等の処分は、市町村教育委員会が小学校の1件を、県教育委員会が高等学校の3件を行った。

(2) 体罰の態様について

主な体罰の態様は以下のとおりである。児童生徒に重大な傷害を与えた事案はなかった。

(部活動指導中)

- ・他校との練習試合後のミーティングの際、生徒1名の左ほおを、右手の平で1回叩いた。
- ・生徒2名が練習に遅れたことを指導する際、生徒2名の右ほおを左手の平でそれぞれ2回ずつ叩いた。

(授業中)

- ・授業中に居眠りをしていた生徒2名を注意する際、生徒一名の頭頂部を両手で持った教科書の表紙面で1回強く叩き、また別の生徒1名の右頬を両手で持った教科書の表紙面で1回叩き、その後右手で持っていたチョークを投げて顔に当てた。
- ・授業中に児童が課題に取り組んでいなかったことから注意をしたが、それでも課題に取り組めなかった。その児童を心配した2名の児童が声をかけたが、横柄で無視をした児童の様子を見て、その児童を後ろから抱きかかえるようにして立ち上がらせ、廊下に連れ出した。廊下で、児童が級友に述べた言葉や態度が不適切であると指導した際、児童が素直に耳をかたむけなかったことから、右人差し指で児童の胸部を1回小突いた。

4 平成29年度に千葉県教育委員会の実施した体罰根絶の取組例

県初任者研修会や5年経験者研修会及び中堅教諭等資質向上研修会、体育主任研修会等において体罰根絶について指導した。

- *指導の中で、リーフレット「体罰なんかいない！」(平成26年9月作成)を全参加者に提示し、「体罰根絶宣言」の周知徹底を図った。

問い合わせ

教育振興部教職員課管理室

電話 043-223-4036